

令和6年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第1回〕）

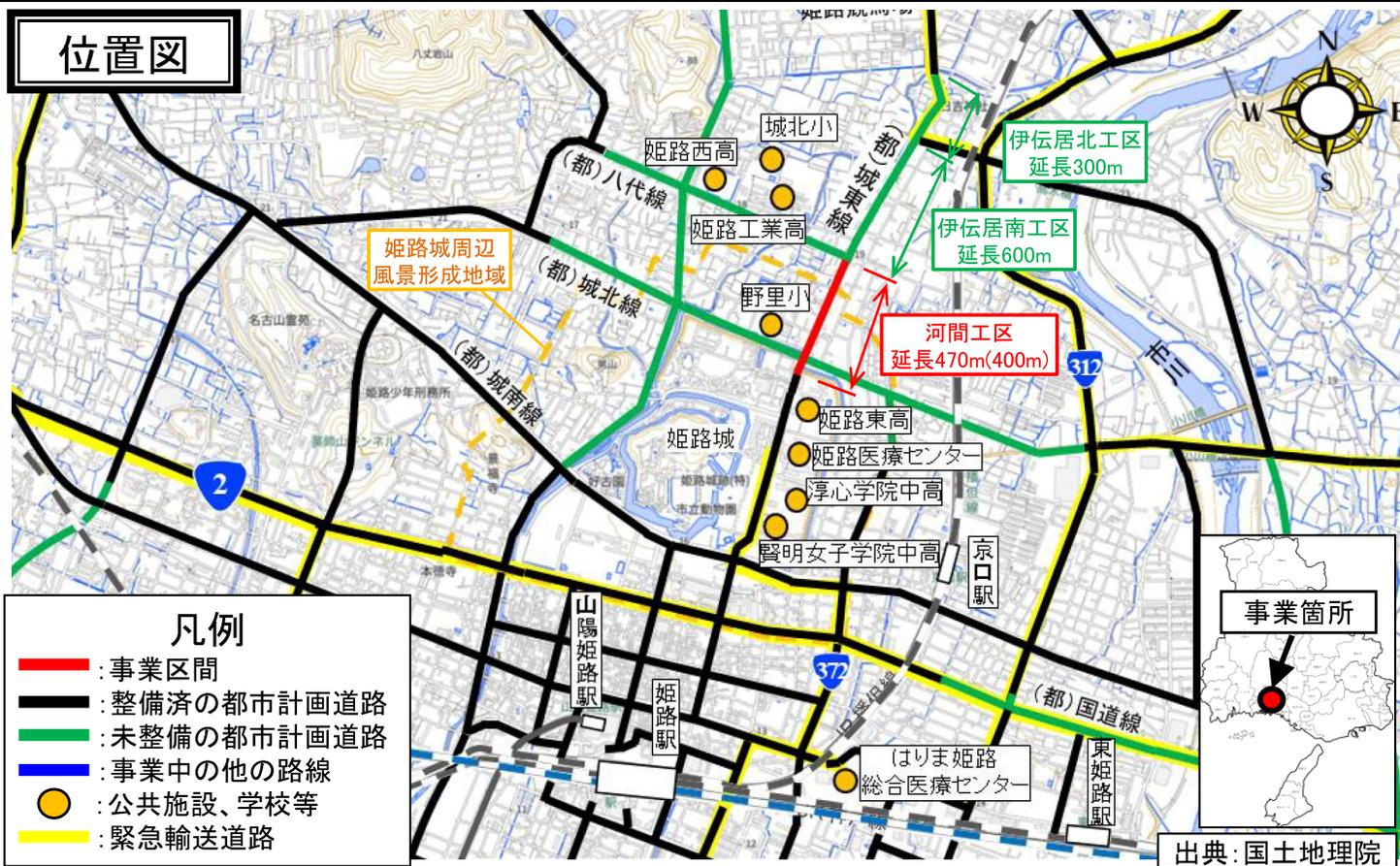
部課室名	道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 志茂 大輔 (街路班長 芦田 渉)	内線	4362 (4474)
事業種目	街路事業	新規評価年度	平成26(2014)年度	現計画	新規評価時点
事業名	都市計画道路 城東線(河間工区)	事業採択年度	平成27(2015)年度	総事業費	18.0億円
		着工年度	平成27(2015)年度	内用地補償費	13.0億円
事業区間	姫路市河間町	完成予定年度	令和11(2029)年度	令和2(2020)年度	
		進捗率 (用補進捗率)	56% (74%)	—	
		残事業費	8億円	—	
事業の目的			事業内容 ( ) 新規評価時点		
姫路駅前から姫路城東側を經由し、姫路城北側エリアまでを南北に結ぶ、姫路市中心市街地の基盤となる幹線道路である。 ○安全で円滑な交通の確保 小学生や高校生が通学で利用しているが、歩道が未整備で路肩を通行しており非常に危険であるため、歩行者及び自転車の通行空間を整備し、安全で円滑な交通を確保する。 ○都市防災機能の強化 緊急輸送道路を補完する道路として、大規模地震時等の輸送経路を確保するため、拡幅整備を行う。			【延長】470m(400m) 【構造規格】第4種第2級 【計画幅員】2車線 車道6.0m 両側歩道3.0m 両側自転車通行帯1.5m〔全幅15.0m〕 (2車線 車道6.0m 両側自歩道4.0m) 【現況交通量】 自動車：15,789台/日〔R3センサ〕 (16,713台/日〔H22センサ〕) 歩行者：354人/12h(361人/12h) 自転車：1,687台/12h(1,283台/12h) 【負担割合】国55%、県22.5%、市22.5%		
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	・平成28年7月に「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」が改訂された。 【新規評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 ①労務単価及び物価の上昇を受けた賃金等の変動に対処し、約1億円増額する。 ②用地補償費算定により約6億円増額する。 ③文化財移転に時間を要するため、事業期間を9年間延伸して令和11年度までとする。 ④自転車ガイドラインの改定(平成28年度)を受け、“自転車は原則車道”の方針から、道路幅員の再検討を行い、自転車歩行者道から歩道と自転車専用通行帯に変更する。 ⑤補償対象である雲松寺について、国の文化審議会が「国登録有形文化財」にするよう、令和6年7月19日に文部科学大臣に答申した。令和6年12月頃、国登録有形文化財に登録予定。 ⑥南側既成道路と円滑な交通を確保するため、擦り付け部70mを追加し、470mとする。				
進捗状況	①用地契約率 46件/62件(74%) 令和6年9月末時点 ②電線協同溝工事の推進には用地買収を完了させる必要があり、引き続き用地取得を進める。用地買収済みの箇所において、埋蔵文化財調査を推進している。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針(H26年度新規評価)	【審査会意見】 新規着手妥当	【対応方針】			—
(1)必要性	①沿道には、多くの学校が立地しており、小学生や自転車通学の高校生が多数利用しているが、自動車交通が多い中、歩道がなく路肩を通行している状況である。 ②過去5年間に14件の交通事故が発生している。 ③市内各地を結ぶ11路線のバスが当路線を運行している。(207便/日) ④道路の路肩に電柱があり、通行の障害となっている。 ⑤震災時には、緊急輸送道路から避難所(小学校等)へのアクセス道路が必要となる。				
(2)有効性・効率性 (執行環境状況)	①自転車通行位置を明示することで、自転車と歩行者の通行場所が明確になり、自転車・歩行者双方の安全で円滑な走行空間を確保できる。 ②広幅員化により、建物火災や倒壊等が発生した際でも通行できる道路として、防災機能の強化を図ることができる。 ③地元連合自治会より早期歩道整備の要望書が提出され、協力体制等事業執行環境が整っている。				
(3)環境適合性	①当該箇所は、姫路市都市景観形成基本計画で姫路城周辺景観形成ゾーンに指定されており、無電柱化を採用し、姫路城と調和した景観の形成を図る。 ②歩道舗装を透水性舗装とすることで、雨水が地盤へ浸透し、ヒートアイランドの抑制や雨水流出抑制など都市環境の改善に寄与する。				
(4)優先性	①(都)城東線で残された未整備区間であり、交通量が多く、通学路と安全な交通空間の整備が早期に必要なため。				
再評価の結果	継続	左の理由	事業の必要性は、事業採択時と変わっておらず、自転車、歩行者の安全確保に資する事業であることから、継続して事業を実施する必要がある。		

事業進捗状況概要図（継続：再評価）

事業名	街路事業	路線・河川名	都市計画道路 城東線（河間工区）
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="175 302 399 380" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>位置図</b></p> </div> <div data-bbox="175 862 558 1108"> <p><b>凡例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="color: red;">—</span> : 事業区間</li> <li><span style="color: black;">—</span> : 整備済の都市計画道路</li> <li><span style="color: green;">—</span> : 未整備の都市計画道路</li> <li><span style="color: blue;">—</span> : 事業中の他の路線</li> <li><span style="color: orange;">●</span> : 公共施設、学校等</li> <li><span style="color: yellow;">—</span> : 緊急輸送道路</li> </ul> </div> <div data-bbox="1316 795 1524 1086"> <p>事業箇所</p> <p>出典：国土地理院</p> </div> </div>			
		事業進捗状況・予定	整備効果
<p>全体 H26(2014) ～ R11(2029)</p>	<p><b>【事業費＝18億円】</b> 延長：470m 用地補償件数：62件、2,575㎡</p>		
<p>事業採択～ 再評価まで H26(2014) ～ R6(2024)</p>	<p><b>【事業費＝10億円】</b> ・事業進捗率：約56%、用地進捗率：約74% ・用地買収を推進している。</p>		
<p>今後5年間 (予定) R7(2025) ～ R11(2029)</p>	<p><b>【事業費＝8億円】</b> 令和11年度供用に向けて、事業を推進する</p>		<p>①安全で円滑な交通の確保 ②緊急輸送道路を補完する道路としての防災機能の強化</p>

# 街路事業 都市計画道路 城東線〔河間工区〕

## 位置図



- 凡例**
- : 事業区間
  - : 整備済の都市計画道路
  - : 未整備の都市計画道路
  - : 事業中の他の路線
  - : 公共施設、学校等
  - : 緊急輸送道路

## 目的

- ①歩道及び自転車専用通行帯の整備による安全で円滑な交通の確保
- ②緊急輸送道路を補完する道路の拡幅整備による防災機能の強化

## 事業概要

事業区間: 姫路市河間町 こばさま  
 総事業費: 18億円  
 内用地補償費: 13億円  
 事業期間: H27～R11  
 事業概要: 歩道設置  
                   自転車専用通行帯設置  
 延長: 470m(400m)  
 計画幅員: 6m(全幅15m)

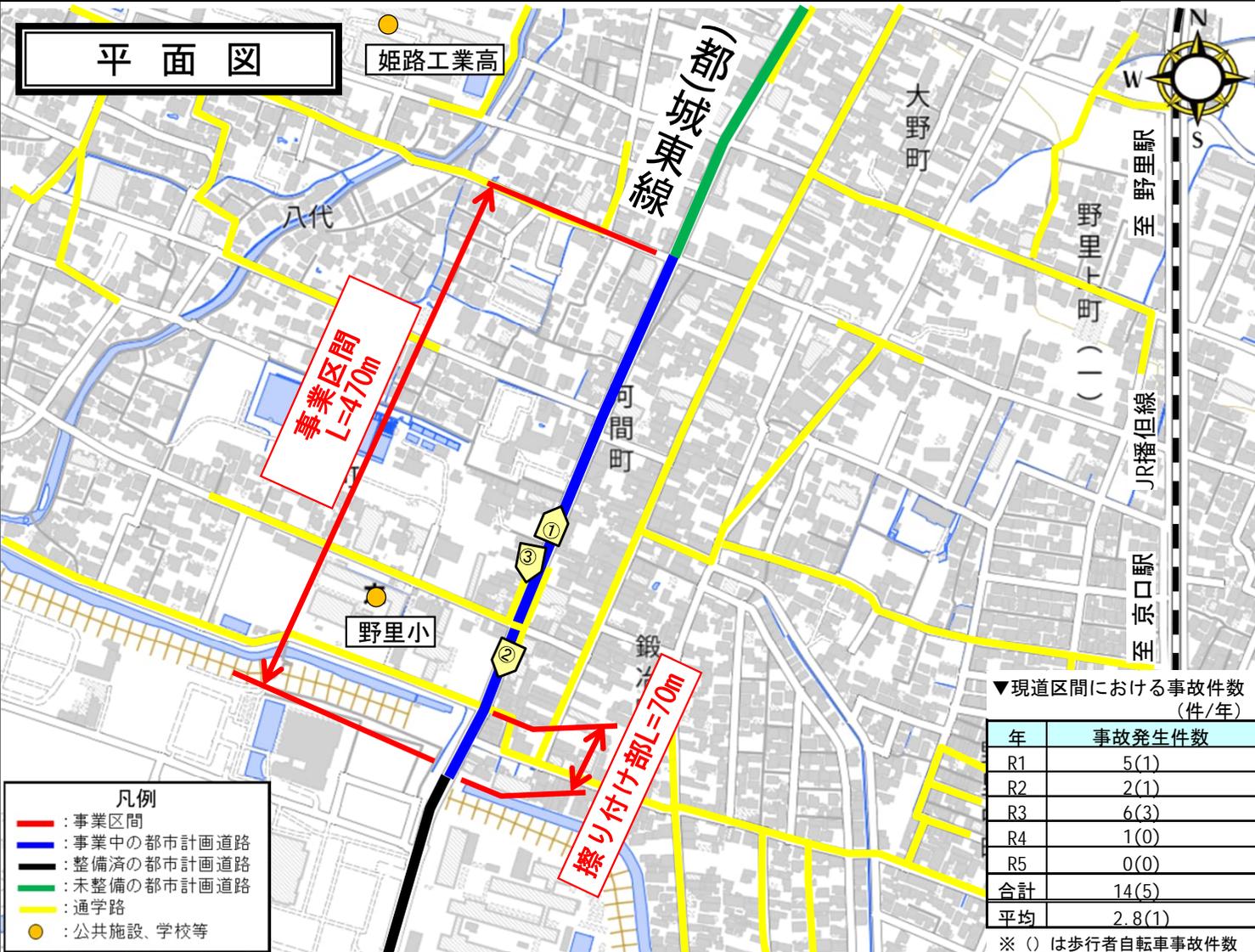
## 横断図



# 事業の必要性・優先性

- ①近隣には多くの学校が立地し、小学生や自転車通学の高校生が多数利用しているが、自動車交通が多い(R3: 15,789台/日)にも関わらず、歩道がなく路肩を通行している状況である。安全な通行のために歩道設置と自転車専用通行帯の設置が必要。
- ②緊急輸送道路を補完する道路として、大規模地震時等の輸送経路を確保するため、拡幅整備を行う。

## 平面図



# 現況写真

①交通状況(中央部)



②通学路の交通状況(南端部)



③交通状況(中央部)



